

あゆみ 歩

文京区立文林中学校第二学年
2017年6月20日(火)
第48号

運動会がんばりました！

6月10日(土)に運動会が実施されました。熱中症や大きな怪我もなく無事に終えることができました。生徒たちは、練習の成果を十分発揮でき、たいへん感動する運動会をつくることができました。特に、今回の運動会は、練習から実行委員が中心となって生徒に指示を出すなどして、各組をまとめてきました。来年度も、素晴らしい運動会になることを期待しています。

	紅	白
得点	247	300

白組の勝利！！



表彰のときの様子です！



全員リレーの様子です！
朝練習や全体練習では、何度もバトンパスの練習をしていました！

男子長距離走です。放課後の練習も一生懸命に取り組んでいました！



開会式前の様子です！
とてもリラックスしています！



女子長距離走です。
苦しくても最後までしっかり走り切りました！



ムカデは練習を重ねるにつれ、徐々にスピードがあがっていききました！



僕は、今回の運動会を通して「全力でやる」ということを学んだ。去年も何かの作文で同じようなことを書いた気がするが、それほど大切なことだと思うので、もう一度書く。

負けた。今年の運動会で紅組は負けてしまった。特に午後の競技は負け越しで、点数で大差をつけられてしまった。非常に悔しいことだ。あと少しで泣いてしまいそうなくらい悔しかった。実際に泣いている人もたくさんいた。

だが、それくらい悔しい気持ちがある一方で、どこかさっぱりしたような気持ちもあった。最初はそれが何かよく分からなかったが、運動会が終わった後でゆっくり考えてみて分かった。その気持ちは勝敗に対するものではなく、練習も含めた運動会そのものに対する気持ちなのだ。

今年の運動会は去年に比べて練習量がかなり少なかった。だから、去年以上に全力で練習に臨んだ。また、そのお陰で本番も全力で臨むことができた。全力でやった結果が完璧なものだったとは全く思わない。元々、僕は、運動が苦手ではないものの、全然、得意でもないのだ。だが、完璧ではなくてもやるべきことはしっかりやっだし、出すべきものも出すことができたと思う。そして、だからこそ運動会が終わったとき、負けたにも関わらず、さっぱりとした気持ちになることができた。

僕は今回の運動会を通して「全力で当たる」ことの大切さを学んだ。何事にしても結果がついてくる。結果はとても大切だが、その過程はそれ以上に大切だ。全力で当たって出た結果だからこそ、さっぱりとした気持ちで受け止めることができる。全力で当たった過程がなければ結果に対する喜びは半減するし、悔しさは倍以上になってしまうだろう。

そして、今年の自分たちにとって、全力を出すか出さないかは自分たちだけの問題ではない。文林中学校全体に関わる問題だ。何故なら、今年は自分たちが文林の二年生だからだ。二年生というのは、中学校で唯一、先輩も後輩もいる学年だ。つまり中堅学年だ。二年生が全力を出していなければ、当然一年生は全力を出さない。そして、下の二学年が全力でやっていなければ、三年生は安心して文林中を卒業することができない。さらに、次の年になると、二年生のせいで全力を出していなかった一年生が二年生になるので、新一年生も全力を出さない。そうなってしまったら、もうおしまいだ。文林中は誰も全力を出さない活気のない学校になってしまう。だから自分のためだけでなく、二年生としての役割を果たすため何事も全力で当たっていききたい。



トレジャーハンターの様子です。
協力してボールを運ぶことができました！

